

ストレスという言葉が、あまり好きではない。今の時代、何でもかんでもストレスというもので片付けられてしまう傾向がある。この言葉がなかった頃は、どうしていたのだろうか。

私の場合ではあるが、疲れがたまると、どこかしらに症状が出る。若い頃だが、それが親知らずに出たときがあった。最初は、虫歯なのかと思ったが、毎回、数日で痛みが治まる。そのうち、疲れが原因だと気づいた。親知らずが痛み出すと、疲れているのだなと自覚できるようになった。

歯の痛みは我慢できない。親知らずは4本もある。いつも同じ親知らずが痛み出すというわけでもない。どうにもこうにも辛い。あるとき考えた。親知らずがなければ痛くなることもない。いたってシンプルな考えである。親知らずを抜けばいいのである。

歯医者さんへの通院のために休みを取るのはしたくない。部活動が終わってからでもやっている歯医者さんを探した。あった。そこに通うようにした。4本の親知らずをいっぺんに抜くことはできないらしく、約1年をかけて抜くこととなった。

麻酔をかけて抜くのだが、ドライバーのようなものを手にした歯医者さんが力づくで抜く感じだった。最初は、かなり不安だった。歯医者さんが、ぐいぐいやるのだが、抜けない。すると、その歯医者さんがどこかに行ってしまった。私はというと、あんぐりと口を大きく開いたままである。いったいどうなるのか。大きな不安が襲ってきた。しばらくすると、別の歯医者さんがやってきた。選手交代である。その歯医者さんにより、私のりっぱな親知らずはようやく抜けた。その歯医者さんは院長先生だった。私の担当医は、手に負えなくなり院長先生を呼んだのである。そういった説明は何もなかった。

しばらくして、2本目を抜くことになった。担当医はかわらない。前回のことがあるから、今回は大丈夫だろうとは思いつつも、少なからず不安はあった。その不安は見事に的中した。全く前回と同じ展開となった。院長先生のお出ましである。無事に2本目も抜けた。

しばらくして、3本目を抜くこととなった。最初からあきらめていた。きっと、また同じ展開になるのだろう。私の期待を裏切ることなく、またまた院長先生に助けられた。4本目は、もはやどうでもよかった。抜ければそれでよかった。

こうして、私の親知らずは4本ともに存在しなくなった。おかげで、疲れても歯が痛くなることはなくなった。それだけでだいぶ違う。だが、疲れてくると、どこかしらに何かしらの症状が出た。歯ではないため、それほどひどくはないのだが、疲れを自覚させてくれるものだった。

私は、アレルギーなどとは無縁の人間である。ところが、若い頃、一時期ではあるが、金属アレルギーになったことがある。腕時計をすることができなくなった。最初は、何だろうと思った。皮膚が反応してしまう。いったいどうしたのか。仕方なく、腕時計をあきらめた。

しばらくすると、自然と金属アレルギーはなくなった。今思うと、あれは疲れではなく、極度のストレスである。認めたくはないが、そうだと思う。その原因は、もう忘れてしまっただが、自分にもストレスはあるのだなと自覚することができた。

疲れやストレスなどの症状が出ることは、それを自覚できるので、いいのかもしれない。親知らずを抜かないままでしたら、どうなっていたのだろうか。今となっては、思い出の親知らずである。